

名称	土塁
建築年代	いずれも大正 10 年以前
構造	版築、一部コンクリート被覆
用途	・一般的には火薬庫など火薬を取り扱う施設を囲むため機能を有する。 ・当初は発射場を取り囲むために設置されたが、昭和戦前期以降、石神井川沿いの地帯に「常温貯蔵室」などが建設されたことから、それらを取り囲むために土塁も増築され、火薬を取り扱う施設を囲う機能も付与された。
特徴	・現在は北から 3 本の土塁が確認されている。北から順にその特徴を示す。 ①土塁（北側） ・旧野口研究所跡地内に東西に構築、東側は加賀公園に接続する。 ・長さ約 33m、高さ 2.5m、斜面勾配約 45° を計測する。 ・北側斜面にはコンクリート被覆がなされている。 ②土塁（南側） ・旧野口研究所跡地内に東西に構築、東側は加賀公園に接続する。 ・長さは約 33m、高さは東端部が最も高く、西端方向へ徐々に低くなる。 ③土塁跡 ・旧野口研究所跡地内に東西に構築、東側は加賀公園に接続する。 ・明治期に築造されたが、「擁壁」や「燃焼実験室」の設置によって段階的に除去されたと考えられ、現在は西端部のわずかな高まりだけが残る。



土塁（北側）



土塁（南側）



土塁跡（擁壁の下の高まり部分）